

国際協力特別賞

「想像」し、「創造」する未来への一歩

長崎県立長崎東中学校 3年

秋山 琴美

「この空で、世界はつながっているんだ。」

高く青く、どこまでも澄み渡る美しい空を見上げながら、私は、カナダの空気を体と心いっぱい
に味わった。

私が、カナダの語学研修への参加を希望した理由は、昨年度、JICA「地球ひろば」で学んだ「世界が直面する諸課題」を、自分の五感と心で感じ、動き始める必要に駆られたからである。

それまでは、日本の中学生として、教育を受けられることや蛇口をひねって水を飲むこと、トイレを使うこと、自然の形、安全保障など、身の回りの全てが自分にとって「当たり前」であり、さらには、世界にとっても「当たり前」だと感じて疑うことがない私がいた。たとえ、テレビなどを通じ、発展途上国や様々な国の問題が報道されたとしても、世界においてひと握りの問題であり、「自分ごと」としてとらえていなかったのである。頭で理解していても、十分に心が理解し、共感していなかったのである。

そんな私に、現実と向き合い、未来へ向けて一歩を踏み出すきっかけを与えてくれたのが、JICAで働く人々の熱い思いと姿、そして、SDGSをはじめとする「地球ひろば」での学びであった。このまま、日本で暮らし、見た目には不自由なく生活することも可能であるかもしれない…。しかし、それが、私にとって「本当の人生」なのだろうか…疑問が不安へと変わる。世界が有する諸問題を「他人ごと」としてとらえるよりも、想像を巡らせながら共感・共有し、よりよい世界に変える意思をもって行動することが、地球に生まれた私にとって必要なのではないかと強く感じている。

父は、公立学校の教員である。教育は今、2030年の社会を見据えており、その社会は、予測が困難で不確かであるという。私は、予測が困難であるということは、「未来をよりよく創る」ことができるチャンスであると思う。今、わずかでも一歩を踏み出すことで、何かを変えるきっかけになると信じている。

将来、私は、獣医師になるとの夢を抱いている。地球上に生息する生き物の生育環境を調査し、JICAやWWF等、多くの関係機関と連携しながらケアし、アドバイスしていきたい。そのために、自然環境についても学んでいく。今回、語学研修ではあるが、カナダに渡航した理由も、カナダの自然環境について学び、関係する問題を調査したかったからである。

現在、私は、学校の放送部と写真部で活動している。カナダで学んだことや調査したこと、その現実を「私の言葉」で届け、さらに写真をとおして響き渡らせることが私にできることである。これからは、発展途上国をはじめ、多くの国々を訪ね歩き、その国の人々と共に同様の活動を進めていきたい。

私の声に耳を傾け、写真を見る人の心に「新たな価値」を生み出し、未来を共有する。

これが、未来を創る「地球人」としての私の使命である。